

露地なし盛土式根圏制御栽培における早期多収技術の確立

要約

植付け3年目の幸水において、10a 当たり 2.3t の収穫量が確保できた。新梢を発生させる芽傷処理等を実施することで、側枝等の確保が容易となり、早期多収生産を図ることができる。

○ 展示のねらい

本栽培法は、効率的改植及び早期多収技術として、平成 23 年度に鹿沼市のなし農家 3 戸 1.1ha で導入された。定植 3 年目は、結果枝確保技術(芽傷、植調剤処理)の検証、収量及び果実品質を確認する。

○ 主な成果

表1 収穫果実調査

調査区	収穫盛 月/日	果実横径 mm	果重 g	糖度 %
根圏制御栽培	8/26	90.3	360	12.5
平棚地植え栽培	8/24	91.6	369	11.7

根圏制御栽培の果実横径は 90.3mm、平均果重は 360g と平棚地植え栽培の果実とほぼ同等だった。糖度は 12.5%と平棚地植え栽培の 11.7%よりやや高かった。果実の玉揃いがよく、14 玉>12 玉>16 玉で 90%を収穫できた。果実等級は平棚地植え栽培と比べて根圏制御栽培で果形の乱れが少なく、秀品率は高かった。



図1 芽傷により発生した芽(4月) 側枝基部への芽傷処理や主枝直上の側枝のせん除により、潜芽等から新梢が発生しやすくなった。

表2 収量と新梢数、せん定後側枝数

調査区	収量		新梢数	側枝数
	kg/樹	kg/10a	本/樹	本/樹
根圏制御栽培	14.2	2,375	10.8	15.6

注1) 10aあたり収量は、167本植えとして算出した。

注2) 新梢数は主枝と側枝基部から発生した50cm以上の新梢本数の合計。

一般的な地植え改植の場合、植付け3年目では樹育成のため収穫はないが、根圏制御栽培では収量が 2,375kg/10a と早期多収となった。芽傷及び植調剤処理により側枝候補となる新梢は1樹あたり 10 本以上発生し、せん定後の側枝も目標数の 15 本を確保できた。

○ 今後の方向性

引き続き、樹形が完成する定植 4 年目まで継続調査し、早期多収生産による経営改善効果について確認する。

早期多収及び基本樹形づくりのための新梢管理技術として、栽培の手引き等を作成し、計画的な改植の推進や新規導入者の確保を図る。

実施機関： 上都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所： 鹿沼市

問合せ先： 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315